



いじめ問題への対応の要諦 ④

三つのアプローチ

- ◆ いじめは、被害児童・生徒に極め深刻なダメージを与えます。

その結果、自己否定感（自分は生まれてこなければよかった）、無力感・あきらめ感（自分ではどうしようもない）、孤立感（誰も分かってくれない）といった感情が生じます。



- ◆ したがって教師は、いじめを受けた子どもに対して、「常にあなたの味方である」ことを伝え、寄り添い、共に悩み、考え、問題の解決に向けて全力を注ぐことが重要です。
- ◆ いじめ問題へのアプローチには、問題解決的アプローチ、予防的アプローチ、開発的アプローチの三つがあるとされています。しかしながら、これらの違いがいま一つ分からない、といった声を聞くことがあります。
各アプローチは、風邪への対応に例えてみると、理解しやすくなります。
- ◆ 私たちは、風邪をひくと、医者にかかって薬をもらって飲みます。これは、問題解決的な対応です。
風邪をひかないように、日頃からうがいや手洗いを励行することは、予防的な対応です。
さらに、風邪をひかない身体をつくるためには、睡眠、食事、運動などに関する望ましい習慣を身に付けることが必要になります。これがすなわち、開発的な対応です。